

なめがた市民 100 人委員会「第2班」議事概要

議論した基本目標	住みやすい環境を整備する
コーディネーター	熊井成和(構想日本 特別研究員)
審議員	平山清直(構想日本)
説明担当者(自治体)	総務課、事業推進課、社会福祉課、介護福祉課
日時	2021年 7月 17日(土)13時40分から14時50分
その他	参加者数 会場 3名 オンライン: 2名 欠席者数 15名

総括

コーディネーター総括

- 誰もが気軽にコミュニティに入るためのきっかけとして、楽しむイベントが重要。
- 何でも相談し合える場が必要。それは市民と行政職員が議題なく集まり、何でも話し合える場があるとよい。
- 移住定住を成功させるには、まず行方の知名度を上げていくためのシティプロモーションが必要。
- 移住希望者の移住を決めるポイントは、家自体の魅力と家の立地環境。

協議の流れ

コ) 本日は、新しい戦略への提案をしていく最終回となる。是非色々な意見を出して頂き、新しい戦略に反映することができればと考える。

また今日は土曜日という事だが、担当課の皆さんも多く集まってきていただいている。是非、こういう機会に市民の意見を聞き取って頂ければと思う。

前回も言ったが、市の事業を批判するだけではなく、市と一緒にやって行方を良くしていきたい。そういう思いで議論していければと思う。

コ) 前回出されたご意見を振りかえり、整理する。

地域コミュニティは、主に「伝統的なコミュニティ」と「自由なつながりのコミュニティ」「目的達成型コミュニティ」の3つの種類がある。

まずは、講や庚申様など伝統的な地域コミュニティ。次に、カルチャーレッスンなどの自由なつながりのコミュニティ。ただ行方市ではそういう場が少ない実情もある。三番目として、地域包括ケア、消防団などの目的達成型コミュニティ。特に行方の消防団は担い手が多いことが特徴である。

この三つのコミュニティの関係性をどのようにとらえるか。多様な働き方や市民生活に対応し、それぞれできることを集約できるシステムと、若い人など色んな人の考えをとり

いれ、創り上げる場が必要であり、そういう場には、そのような機会を作るリーダーが必要である。

この協議の場づくりの具体的なアイデアや、必要な行政支援の仕組みのアイデア、自由なつながりのコミュニティの可能性について議論していきたい。

そのうえで、市が考える施策として、コミュニティ活動を行う協議の場づくりや、地域課題の学習機会及び情報提供・交流の場づくり、地域コミュニティ活動を支援するための行政の仕組みづくり、持続可能な消防団体制を検討し、戦略へ反映することになる。

介護の分野では、これまでに困っている高齢者の情報を共有するためのアイデアの提案があった。本日は、新たなアイデアとして、高齢者世帯を見守るために必要な対策や、住民主体の通いの場をどう創るかを議論していきたい。

そのうえで、市が考える施策として、見守りネットワークの仕組みづくりや、高齢者世帯の実態把握と見守り活動、市内部の関係部署間の連携と一体的実施、住民主体の通いの場の充実と高齢者の生きがいづくり、認知症の人や家族を地域や職場などで温かく見守る仕組みづくりを検討し、戦略へ反映していく。

ここまでのところで、いかがでしょうか？

委) 私は消防団に入っていたので、よくわかってはいるが、今すぐにはできないと思うけれど、消防団の OB 会があればいいと思う。広域的な災害の場合には、消防署や消防団があるけれど、それだけでは不足するのではないかと思う。OB 会を作って、OB 会も協力できるような体制を築ければいいと思う。

コ) 消防団は何年くらいご経験されているのか？

委) 31 年やっている。

コ) 行方市の消防団員数は県下でも多いという事ですよ。人口割にすればかなりすごいのではないか？

市) 人口割にすれば県内でもトップ。全国でも 50 以内には入る。

コ) 30 年以上やられていたら、ほとんどの方を知ってらっしゃるんじゃないですか？

委) 昔の事ですから。

コ) 第 3 回の時にも消防団の話は出たが、少しずつ定員割れをしている現状でもあるという。ただ数が多いという事には変わりはない。なぜこんなに消防団が充実しているのか？

市) 地域の一員としてある程度の年齢が来れば、当然入団するという頭でいる。私も 26 年目の現役だ。49 歳になる。ただ、世の中変わってきているので、当然入るものとする人が少なくなってきた。だから人数が減少していると思う。

コ) 他にコミュニティと聞いて何か思う事はあるか？

委) 自分の住んでいる地域でコミュニティがあるとかは考えたことがない。引っ越してきても別に入らなくてもいいよみたいなことを聞いた。私は入っていききたいのだけれど、結局は向こう三軒顔も知らない。将来のことを考えると、不安に思う。例えば、将来独りになって、倒れたとしても、近所の誰も気づいてもらえない、救急車も呼べない。コミュニケーションをとれる何かのきっかけがあればいいなと思う。

例えば、家の部屋を一つ空けておいて、外国人の方とかでも、住み込みで介護をしてもら

うという事を考えている。

コ) 凄いですね。ご自身で考えて、住み込みで介護をしてもらうアイデアを持っておられるとは。施設に入るといふ事も一つ的手段ではあるけれど、住み慣れた地域・自宅で老後を過ごすということも重要な選択肢の一つではないかと思う。担当課の方いまのお話を聞いていかがですか？

市) 自分でそういうように考えられたことはすごいと思う。ただ、たくさんそういう方がいらっやって、例えば、ご夫婦でこちらに移り住んできたけれども、どちらかがお亡くなりになって、独りになってしまったという方、そういう方に対しては、私たちがお手伝いすることがあって、介護保険の申請前であれば、独り暮らしを支えるサービスがありますし、デマンドタクシーやふれあいバスもお使いいただける。またヘルパーさんのサービスをお使いいただける。また割安な手段としては、シルバー人材センターへサポートを依頼することもできる。そのように独り暮らしの高齢者の方々は、住み慣れた地域・自宅で生活を続けておられる。

また、ずっと勤めをしてきた方は、地域に溶け込むことができず、近所に頼むという事に抵抗感を持たれる方が多い。民生委員がそういう方と地域の橋渡しをしているところもある。そういう方は、先ほどのヘルパーさんやシルバー人材センターへの依頼で、年代も近いこともあり、会話も弾み、うまく心を通わせて利用しておられるようだ。

コ) 色々調べられている中で、市の介護制度とか、民生委員のこととか、お調べになったことはあるか？

委) 身近な人や制度を知る中で、介護施設に入ることが難しいという事を知り、だったら住み込みがいいんじゃないかと思った。

コ) 両親の事とかで、介護制度を調べることは多いけれど、自分の将来の事として考えるという事はすごいと思う。

委) 私もまだまだ介護は大丈夫かなと思っているが、将来は自分の子どもの世話にはなりたくないと思う。子どもたちにとっても迷惑だと思う。2000万問題というのがあったが、まあ2000万あればなんとかなるんじゃないかと思っている。

コ) もう一つ発言の中にあつたヒントとして、地域に入っていくためのきっかけって何だと思うか？

委) やはりイベントだと思う。ゴミ拾いとかは結構やっているが、そういうものではなく、これこれこういうイベントをやってますから来てくださいと声掛けをして、当日参加もOKなものであれば繋がりを作りやすいと思う。それは住んでいる地域だけではなくて、隣の地域とかでも参加ができれば、そこで仲良くなることもあると思う。

コ) 地域の伝統的なコミュニティやイベントはなかなか入りにくい。カルチャーレッスンのような自由なコミュニティがあれば、入りやすいのだが、それはなかなか少ないという課題もある。

委) つくば市に木工教室のイベントがあつた。これは定年された方が主催するイベントであるが、かなり本格的に靴箱を作るイベントであつた。そういう定年を迎えた地域の高齢者が、そういう教室を開催されたらいいのでは。料理教室とかもいいと思う。

市) 私は地域のイベントには積極的に出ます。やっている時は正直面倒。でも参加することで、

助かることもあるし、良かったと思えることもたくさんある。仕事で自分が行けないときも家族に行かせたりしている。そうすることで、地域の繋がりや信頼が生まれていくと思う。

コ) 煩わしさと制約というものはコミュニティには必ずあるが、しかしそれがなければ団体が守れない。まさにコミュニティ論で言われていること。

市) 間をとっていくことが大切だと思う。自分の言いたいことはあるけれど、今は言ってはまずいなとか。この時に入っても大丈夫かなとか。特に地域の先輩方と話す時には気を遣う。

コ) それがコミュニティの本質。包括だとかは、そもそも助けようという本質があってコミュニティを築くわけだから、制約は付きまとう。だからこそきっかけはイベントだとか、楽しむことから入ると入りやすい。そして絆を作っていく助け合いに結びつける。

あとは一体それをだれがやるかという話。誰がやるべきだと思いますか。

委) 目的がはっきりしていればおのずと人は集まるのではないか。消防団であれば、地域を守るとか。

コ) まずは目的をしっかりと共有するという事ですね。

委) 子どもから大人まで何人でも参加できるハイキングがある。

コ) それを企画するのは誰なんですか？町内会ですか？

委) 誰ともなく集まって行っている。

コ) 時間が押してきました。最後に行政に対して期待したいことは何ですか？

委) 自分がその場になってみなければわからない。

委) 市民が自分の意見を離せる場が必要。市の職員も自分の仕事から離れて、自分の事を市民と話すことが重要。市民と市職員が楽しくざっくばらんに意見を言い合える場が重要。そうすることで、市と市民の溝も埋まり、信頼関係が生まれる。色々な事で協力し合える関係性が築ける。

市) 従来住民との会議では、議題に沿って堅苦しく、決まりきった話しかしない。自由な意見を出し合うという場は大切だと感じた。

コ) そうか。議題のない会議はないですね。

コ) ここまでの議論を整理します。まずは、誰もが気軽にコミュニティに入るためのきっかけとして、楽しむイベントが重要。そして今話にあった、何でも相談し合える場が必要。それは市民と行政職員が議題なく集まり、何でも話し合える場があるとよいということですね。

コ) 時間も押してきていますので、次に移住定住の話に移ります。

移住定住の支援の関係では、これまで、移住者を引きつける行方市の宝について、議論してきた。まずは、災害が少ないということ、野菜・水がおいしいということ、治安がよいということが挙げられた。一方で、不便だと感じるという意見も多く出た。不動産が安価というのも要因の一つだと考えられる。良いところだけでなく、悪いところも知ってもらうことが、大切ではないかと話し合われた。また、新型コロナ後のライフスタイル変化も見据える必要がある。

移住者と地域コミュニティとの関係性については、移住者がよそ者扱いされて、中々地域に溶け込んでいけない現状がある。中には、引っ越してしまった例もあると聞いている。今あるコミュニティへ参加するためのきっかけの場が必要であり、みんなで住みやすい行方を考える場を設けようと議論された。

また、いきなり移住するという事は、なかなか敷居が高いことから、段階的な移住を検討しようという話も出た。ワーケーションなどをきっかけに、段階的に移住、定住につなげるのがよいのではないかという議論もなされた。

本日は、移住者に対する行方の宝を探すためのアイデアや、UIJ ターン者支援のアイデアを考えていきたい。

そのうえで、市が考える施策として、行方市の魅力を発信する広報 PR の展開や、定住支援センターの体制整備、空き家バンク登録制度の活用、二地域居住の促進、UIJ ターン者への支援、空き家等を活用したビジネスモデルの創出を検討し、戦略へ反映していく。

かなり具体的なアイデアも出ておりますが、如何でしょうか？

委) 体験ツアーとか来てもらうことが大事かと思うが、来てもらうにはそもそも行方市が、知られていないと思う。行方市はもともと何市だったのかも知らない。鉾田市はカミナリが出てきて、そこそこ知られていると思うけれど、行方市にもそういう売りがあるのに知名度がなさすぎる。来てもらうためには

コ) とりあえず言えることは知名度を上げていきましょうという事ですね。

市) まず読めないですよ。行方市はもともと行方郡の3町、麻生、北浦、玉造が合併して行方市になっている。

委) 読めないことを逆手にとってアピールしては？

市) そういう事もやってはいる。

コ) 行方市の魅力って何ですか？

市) 常陸国風土記にその名が残っており、歴史・文化・伝統がある。

委) 確かに行方は読めないよね。

コ) 日本一読みづらいまちというキャッチコピーとか。

委) 霞ヶ浦や北浦に面している。それをもっとアピールしては？

コ) なるほど。

委) 地域のブランドでも PR できる。そのうえでも地域のブランドとその地域の場所のイメージが一致するのは大事だと思う。

コ) 市の方からこの機会に聞きたいことはあるか。

市) 実際に移住してきた方の意見を聞いて、どうすれば移住してきたいと思うのか考えてい。

コ) 実際に移住してきたわけですが如何でしょうか？

委) 住む家が、どのくらいの予算で、どれだけ魅力的な家であるかという事が重要だと思う。そのあとに治安・交通とかを見るかと思う。なので家が気に入るか気に入らないかだと思う。行方を気に入って家を買うというよりも、家を気に入って行方に住む人の方が多いと思う。私は実際にそうだった。家を買う時に契約書の中で、行方市というのは「なめがた」

と読むことを初めて知った。家を建てるのであれば魅力的な場所、中古の家であれば、家自体の魅力と場所の魅力だと思う。

コ) それは本質かと思う。館山でも魅力的な家と立地環境がいいから移住してくるのだと思う。

コ) それでは時間が過ぎてしまいました。次回までにこれまでの議論の内容やシートの内容を構想日本でまとめてご提示します。

ホワイトボードの写真(コーディネーターが議論をまとめた資料含む)

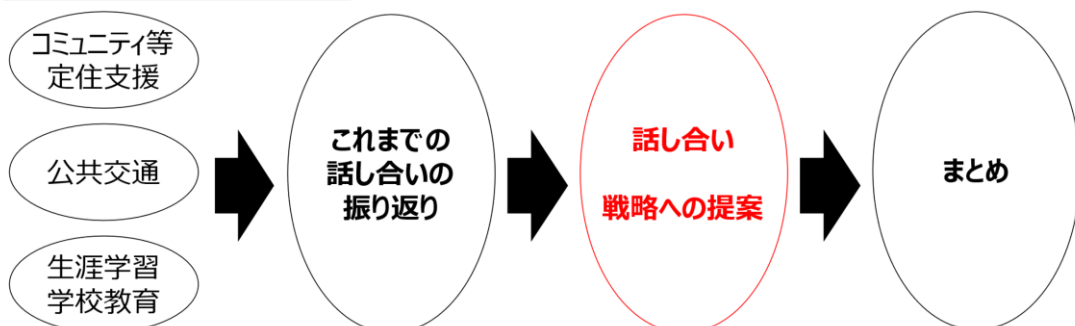
なめがた市民100人委員会

第2班

住みやすい地域プロジェクト

みんなで育むプロジェクト

本日の委員会の流れは？



これまでの話し合いの振り返り 前回出されたご意見を振りかえり、整理してみます。

話し合い 戦略への提案について話し合います。これまでの提案にモレはないか、新しい提案はないか、などを話し合います。

まとめ 改善提案シートにご記入いただきます。最終的な反映につなげます。

委)：委員、コ)：コーディネーター、審)：審議員、市)：説明担当者

地域コミュニティ・介護福祉

• 見えてきた“三つのコミュニティ”

- 伝統的な地域コミュニティ 例：〇〇講、庚申様など **過渡期・希薄化**
- 自由なつながりのコミュニティ 例：カルチャーレッスンなど **場が少ない**
- 目的達成型コミュニティ 例：地域包括ケア、消防など **担い手・拡がり不足**

• 新たなコミュニティの姿

- 三つのコミュニティの関係性は？
- 多様な働き方・生活の市民が、それぞれできることを集約できる“システム”が必要。
- 若い人など色んな人で考え、創り上げる“場”が必要。

• “場”と“リーダー”の必要性

- 集う“場”と、そのような機会を作るリーダーが必要。
- “誰”が助け合いのコミュニティを創るのか？

地域コミュニティ・介護福祉

市が考える施策

- ・コミュニティ活動を行う協議の場づくり
- ・地域課題の学習機会及び情報提供・交流の場づくり
- ・地域コミュニティ活動を支援するための行政の仕組みづくり
- ・持続可能な消防団体制の検討

委員会からの提案 *行政・地域・市民の役割

これまで提案されたこと（モレはありませんか？）

- 若い人など色んな人で考え、創り上げるための **場**
- 多様な生活の市民が、できることを集約する **システム**
- 集う“場”を創るための **アイデア**
- コーディネートするリーダーを創るための **アイデア**
-
-

新たなアイデアなど（新たなアイデアなどはありませんか？）

- 例：協議の場の具体的なアイデア
- 例：必要な行政支援の仕組みのアイデア
- 例：自由なつながりのコミュニティの可能性
-

地域コミュニティ・介護福祉

市が考える施策

- ・見守りネットワークの仕組みづくり・高齢者世帯の実態把握と見守り活動
- ・関係部署（企画課）との連携と一体的実施
- ・住民主体の通いの場の充実と高齢者の生きがいづくり
- ・認知症の人や家族を地域や職場などで温かく見守る仕組みづくり



委員会からの提案 *行政・地域・市民の役割

これまで提案されたこと（モレはありませんか？）

- 困っている高齢者の情報を共有するための **アイデア**
-
-
-
-

新たなアイデアなど（新たなアイデアなどはありませんか？）

- 例：高齢者世帯を見守るために必要な対策
- 例：住民主体の通いの場をどう創るかのアイデア
-
-

地域コミュニティ・介護福祉

市が考える施策

- ・障がい者支援相談窓口
- ・スポーツを通じた社会参加の促進



委員会からの提案 *行政・地域・市民の役割

これまで提案されたこと（モレはありませんか？）

-
-
-
-
-

新たなアイデアなど（新たなアイデアなどはありませんか？）

- 例：障がい者支援相談窓口はどうなったら良いか。
- 例：どのような社会参加が良いのか。
-
-

定住支援

- **移住者を引きつける行方市の“宝”**

- 災害が少ない。野菜・水がおいしい。治安がよい。
- 不便だと感じる。不動産が安価というのも要因の一つだと思う。
- 良いところだけでなく、悪いところも知ってもらうことが、大切ではないか。
- 新型コロナ後のライフスタイル変化も見据える必要がある。

- **地域コミュニティとの関係性**

- 移住者はよそ者？今あるコミュニティへ参加するためのきっかけの“場”が必要。
引越してしまった例もあると聞いている。

- **段階的な移住**

- ワーケーションなどをきっかけに、段階的に移住、定住につなげるのがよいのではないか。